

四蔵祭ばやし

相模川以西に源をおく田村ばやしの流れをくむといわれる。
鎌倉時代、源頼朝の重臣で円蔵に館があった懐島景義が、楽人を呼んで酒宴を開き家臣と共に舞い、太鼓を叩いて楽しんだと伝えられる。それが村人に受け継がれ、今の円蔵祭ばやしになったといわれる。
(昭和50年3月市重要文化財指定)



茅沢焼米搗唄

臼をつく時の作業唄。千本きねを使う時に、臼の縁を打って拍子を取る音色が独特。今は茅沢だけに伝えられている。
焼米とは、水でふやかしたもみを、ふかして煎って臼でついたもの。田植えのころに豊作を祈って作り、神に供えたり、おやつにしたりした。
(昭和54年3月市重要文化財指定)



今回の発見!

茅ヶ崎の郷土芸能

今回は、市の重要文化財に指定されている四つの郷土芸能を紹介します。
江戸時代、市域には23の村がありました。人々は祭りや仕事、年中行事などを一緒にに行い、互いの結びつきと村への愛着を強く持つて生活していました。茅ヶ崎では、祭ばやしや祝い唄、作業唄などの民謡が伝わっ

ています。
都市化と人々の生活の変化にともない、郷土芸能はだんだん出番が少なくなっ
ていきました。しかし、今でも結婚式などの祝い事の
時や神社の祭礼、郷土芸能
大会の舞台などで演じられ
ています。
【生涯学習課文化財保護
担当】

柳島エンコノ節



主に西日本の太平洋岸の諸地方に、ヨイコノ節と呼ばれて広く分布する。港々に歌い継がれているが、県内では他に例を見ない。柳島は明治の初めまでは港だったが、今ではこの歌だけが昔を物語っている。結婚式、上棟式などで歌われる祝い唄。
(昭和51年1月市重要文化財指定)



南郷麦打唄

市内にも、昔は麦畑がたくさんあり、初夏の収穫期には、あちこちから脱穀のための麦を打つクルリ棒(※)の音とこの作業唄が聞かれた。
重労働の疲れをまぎらし、作業の調子を整えるために歌われた。
(昭和54年3月市重要文化財指定)
※…1.5mほどの竹の棒に、回転する木の棒を付けた道具

